

★デジタルプラットフォームの構築★

業務の効率化につながる社内インフラの整備（デジタルプラットフォームの構築）は、企業にとって重要な課題といえます。

○社内インフラの必要性と目的

インフラとは、「下支えするもの」、「基盤」という意味です。単にインフラという場合は、一般的に電気・水道・ガスなど生活の基盤となるものや、道路・鉄道など産業や生活の下部構造を指します。

企業が事業を進めるにあたって基盤となる仕組みが「社内インフラ」です。

電気や水道をはじめ、電話・FAX といった通信インフラやパソコン・ネットワークなどの IT インフラは、すべて社内インフラといえます。

社内インフラの整備は、事業活動を安全かつ効率よく進めていくために不可欠な要素でしょう。

○重要な IT インフラ

コンピューターやネットワークに関するインフラが「IT インフラ」です。

パソコン・ネットワーク関連機器・サーバーなどのハードウェアと、OS・アプリ・データベースなどのソフトウェアに大きく分けられます。

昨今のビジネスにおいて IT インフラの重要性はますます高まってきており、働きやすい環境を実現するために IT インフラの整備は欠かせません。働き方改革の推進に合わせて、リモートワークなどの取り組みも多くの企業で進められています。

業務の効率化を図るためにも IT インフラの整備は企業にとって重要な課題です。

○社内の IT インフラ整備に必要なもの

IT インフラを整備するためには、さまざまな機器やシステムを導入する必要があります。単に機器をそろえるだけでなく、それぞれが効率よく動作するための環境づくりも重要です。準備する際は自社に合った環境を構築できるように、社内で入念な検討をする必要もあるでしょう。

ここからは、社内の IT インフラ整備に欠かせないハードウェア・ソフトウェアを解説します。それぞれのツールが果たす役割を理解しましょう。

・パソコン

パソコンは、個人での使用を目的に作られているコンピューターです。各種データを作成したり情報を収集したりする役目を果たします。社内の IT インフラ整備にあたっては、安全性や効率性を高めるため個人使用が前提です。

業務を円滑に行うためには「どの範囲の人に必要か」「部署内で何台必要か」「どの程度のスペックが必要か」などといった要件を検討します。多くの台数を導入する際には、ひとつのパソコンでセットアップした雛型をもとに複製する方法が一般的です。

・サーバー

ファイルやプログラムなどを保管する場所がサーバーです。Web サーバーやメールサーバーなど多様な用途別の役割があります。また、クラウド上のレンタルサーバーや社内に導入できる専用サーバーなど、サーバーの場所によっても区別されることが特徴です。社内で各パソコンとサーバーをネットワークでつなげ、サーバーに保管されたデータをそれぞれのパソコンで共有できることがポイントでしょう。

IT インフラにサーバーを導入することで、データや情報を一元化できることがメリットです。

・ネットワーク・WiFi

パソコンやサーバーを接続した状態がネットワークです。ケーブルなどを使用して構築する有線タイプと、WiFi などを利用した無線タイプがあります。

外部のインターネット回線とパソコンやサーバーを接続した状態もネットワークです。IT インフラにおいて、各パソコンで社内のデータを効率よく共有するネットワークの整備は大切です。インターネット回線を整備することでクラウドサーバーなどの利用も可能になることから、業務の効率化が期待できます。

・OS

パソコンのデバイスやアプリを動かすための基本ソフトが OS です。代表的な OS には Windows や macOS があり、スマートフォンやタブレットなどの端末には Android や iOS などの OS が入っています。OS が異なると基本的に互換性がないため、社内の IT インフラにパソコンを導入する際は OS を統一することが重要です。

OS をそろえておくことで、アップデートやアプリの一斉導入への対応もスムーズにできるでしょう。

・ミドルウェア

ミドルウェアとは、OS とアプリの中間に存在するソフトウェアです。ある分野に特化したアプリに対しその分野に共通する機能などをアプリに提供したり、アプリの動作を制御したりして、異なる OS でも多くのアプリを使えるようにする働きがあります。社内の IT インフラにミドルウェアを導入することで、パソコンなどの端末に専用アプリなどを導入しなくても、Web ブラウザのみでシステムを利用できるメリットが生まれます。

社内の IT インフラをよりよい環境に整備するためには、ミドルウェアも大切な要素といえるでしょう。

○社内インフラを整えるなら重要視すべきポイント

作業環境や業務効率に大きな影響を与える社内インフラを導入・整備する際は、「安全性」「快適性」「不具合発生に対するリスク管理」を重視する必要があります。これら 3つの要素を向上させることで、よりよい環境の構築につながるでしょう。社内インフラを整える際に重視したいポイントをひとつずつ解説します。

・セキュリティの安全性

IT インフラは社内 LAN だけではなく、外部ともネットワークでつながります。インターネットを利用したりクラウドサーバーにアクセスしたりできる反面、外部からの不正アクセスによってセキュリティ面で危険にさらされるかもしれません。情報漏洩やウイルス感染などのリスクに備えることは、IT インフラの構築にはもっとも重視したほうがよい課題といえます。セキュリティの向上を高めるシステムを導入するとともに、社内でのセキュリティに対する意識も高める必要があるでしょう。

・快適に使えるかどうか

パソコンやサーバーの処理スピードは、業務の快適さに直結します。インターネット回線のスピードも作業効率に直結する要素でしょう。時間を無駄にしないよう、高速化・簡略化できる IT インフラの整備が大切です。パソコンやネットワーク機器の設定を見直したり、使用するアプリを変えてみたりすれば、より快適な環境にできる可能性があります。業務を効率化できるツールを導入するなど、コストを抑えながらスピードアップを図ることも重要です。

・障害や災害に対する対策

なんらかの障害や災害による不具合の発生は防ぎようがない側面はあるものの、リスクとして備えておく必要はあります。ネットワーク障害やサーバーダウンにより業務ができなくなれば、事業全体に悪影響を及ぼしかねません。業務の効率化につながる社内インフラの整備（デジタルプラットフォームの構築）は、企業にとって重要な課題といえます。